



「立ち止まる」大切さ

八木南小学校校長
佐藤 智子

6月18日 2-2 小竹 美緒

わたしは、読書が大好きです。青、赤、黄、みどり、くろをたっせいすることができました。校長先生が、「すごいね。」と、ほめてくれました。みんなもはく手をしてくれました。うれしい気持ちになりました。

「思いっきり遊ばなくても、『本』というステキな友達があります。旅行に行けなくても本がいろいろな世界に連れて行ってくれます。読書は“心と頭にたっぷり栄養をくれるもの”。そして新型コロナウイルスは、夢中になって読書をする子供には近づきません。」7月31日、1学期終業式でこう伝えました。1学期末、全校児童の、青の達成率は53%、赤の達成率は20%、黄色は18人、緑は10人、黒は3人でした。去年より早いペースでたくさん読む児童が増えています。



上の日記は全校で最初に黒の輪を達成した児童のもので、大切なことは、誰よりも早く次の輪に進むことではなく、読書を習慣化することです。小竹さんは黒の輪達成後も30冊読み終わる毎に校長室に楽しそうに読書ファイルを見せに来ます。読書を食事に例えると……食べる速さ(味わい方)や食べる量、何が好物かなどは個人差があります。栄養バランスのいい食事が成長に欠かせないように、読書もできれば様々なジャンルの本を読むことが大切です。けれども食事との大きな違い……それは、食べ過ぎは禁物ですが、本はどんどん読む=多読が大切だということです。



さて、デジタル化の進む現代において、紙の本での読書にどんな意味があるのか、興味深い記事を見つけました。7月28日に本校で行った、辞書編集歴40年の神永 暁さんによる出前授業「言葉って面白い！」と重なりました。神永さんは、「その言葉が自分の中でじっくりいか確かめることが大切」とおっしゃいます。まさに「言葉を吟味し、問いを發し、自ら思考する」「真の理解は、時に立ち止まり、後戻りして……得られる」ための言葉との向き合い方だと思います。紙の辞書、紙の本……確かに重くて持ち運びに不便ですが、急かされず、立ち止まり、自ら思考するためには、おろそかにしてはいけない大切なものだと思います。

考えてみれば私達はコロナ禍の中で“立ち止まる大切さ”を実感できたのではないのでしょうか。確かに、直接対面するリスクを避けられるオンラインの価値への認識は高まりましたが、対面の価値、デジタルでないものの価値も改めて見直す機会にもなりました。

「立ち止まる大切さ」について、俳優の菅田将暉さんが語っている言葉も、ぜひ子供達に届けたいと思います。次の文章をお読みください。

読書新聞 2020.7.12

『あすへの考』

教育の中の読書 神経科学者 メアリアン・ウルフ氏

スマホなど現代のデジタル媒体は「言葉を吟味し、問いを發し、自ら思考する」ために適した媒体ではありません。デジタル媒体と紙媒体をめぐる比較調査(欧州で2000~17、若者総計17万人対象の大実験)があります。その結果は、紙で読む方が話の内容・筋立て・場面などをよりよく記憶し、理解できた。幼年時からデジタル媒体に親しんできた世代でも結果は同じでした。~中略~ 電子書籍にも同様の落とし穴がある。つい読み返し、吟味がおろそかになり、「深い読み」ができない。真の理解は、時に立ち止まり、後戻りして、あえて言えば作者が姿を現すのを待つことで得られる。忍耐が必要なのです。デジタル媒体は結末に向けて読みをせかしてしまうのです。~中略~ 速読向きのデジタル媒体に染まると、ヒトは考えに時間を割かなくなる、短絡的になり得る。米国でデジタル世代は他者への共感が薄くなってきているという知見もあります。

~子供達にメッセージをお願いします~

夢が見つからない、何を頑張ればいいのか分からないという時は、一度立ち止まって回りを見渡してみてください。汗をかき、必死に生きている人が必ずいるはず。それは、よく行くお店で働く人かもしれないし、家族を思って料理を作ってくれたり、家計を支えてくれたりする親かもしれない。そんな人の生き方を見て、聞いて、なぜ頑張れるのかを知ることが、夢を見つけ、叶えるためのヒントになると思います。

『子ども応援便り』2020 vol.27
教育関係団体連絡会発行

どんな役にも全力投球で、走り続けているイメージの菅田さんだからこそ、“立ち止まることの大切さ”が意味深く感じられます。休校期間や昨日までの夏休みを通して、きっと子供達は「立ち止まり」、自分の身の周りを見渡し、あれこれ考えたはず。別の見方をすれば、子供達がそんな視点で大人を、私達教職員を見つめた時に、“(他者に)共感”でき、夢を描くヒントになるような姿でいたいと思いました。また、学校という学びの場で、子供達が「立ち止まる大切さ」を共有し、「問いを發し、自ら思考する」—そんな2学期の一日一日をつくっていきたくて願っています。



School Events

8月

9月

24(月)	2学期始業式、給食開始14:50下校	3(木)	委員会活動
26(水)	5・6年身体測定視力検査	8(火)	尿検査
27(木)	3・4年身体測定視力検査	9(水)	クラブ活動
28(金)	1・2年身体測定視力検査	10(木)	聴力検査2,3,5年 安全点検日
		11(金)	聴力検査1年
		24(木)	耳鼻科検診
		25(金)	学級懇談会・脊柱側湾症検診5年

School Days

特別講師をお招きしての授業(出前授業)

7月9日(木)に、社会の単元「縄文の村から古墳の国へ」で、流山市教育委員会埋蔵文化財整理室の調査員鈴木徹さんに授業をしていただきました。「はにわ」の修復作業のお話を聞き、前方後円墳の学習をしました。子供達は興味深い表情で授業を受けていました。



7月28日(火)に「言葉っておもしろい!」辞書って楽しい!と題して神永 暁先生に授業をしていただきました。神永先生は小学館入社後、37年間辞書編集一筋の編集者人生を送られた方です。NHK「チコちゃんに叱られる!」で『人一倍』はなぜ『人二倍』じゃない?の回で解説をされた先生です。子供達が類語辞典を活用して「言葉のおもしろさ」や「辞書の楽しさ」を実感した、あっという間の2時間でした。



Attention

□図書室での“ボランティア活動” & “書架作成計画”

8月18日、20日の両日、3名のボランティアの方々が、廃棄本の選別、新刊本のブックカバーの取り付け作業等の図書室整備に来てくださいました。また、図書室後方の閲覧場所を低学年児童が手に取りやすい高さの書架に作り替え、本の収納スペースを広げようと計画しています。完成には日数がかかりますが、楽しみにしてほしいと思います。

□給食室のエアコン工事完了

7月6日(月)から8月20日(木)の間で給食室のエアコン設置工事が行われました。7月は長雨の中、ブルーシートを張っての外工事を行い、工期を遅らせることなく予定より早めの18日(火)に完了しました。エアコンが設置されたとはいえ、猛暑の中での調理員さん達の作業はとても大変です。感謝の気持ちを持って給食をいただきたいと思います。